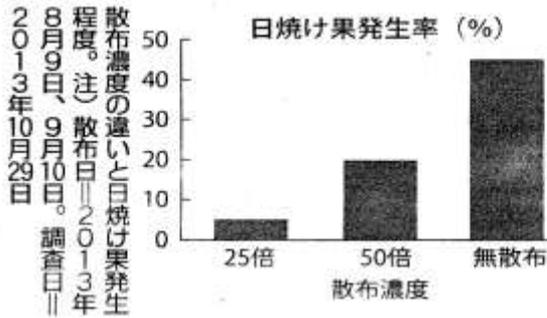


農業技術

プリズム

気候温暖化が進む中で、かんきつでは夏期の果実肥大期に強



散布濃度の違いと日焼け果発生程度。注) 散布日 2013年8月9日、9月10日。調査日 2013年10月29日

日射を受けることで日焼け果が発生し問題となっています。中でも中晩生かんきつ「せとか」

「せとか」の日焼け果軽減

微粒子炭酸カルシウム水和剤の散布が効果的

イロアザミウマに対して希釈倍率25〜50倍で登録されている微粒子化された炭酸カルシウム水和剤に着目し、光反射が大きい本薬剤を散布して果実に被膜を作り、日焼け果を軽減する効果を検討しました。

その結果、晴天時の日中には果実温度の上昇を2〜4度抑えることを確認しました。また、1回より2回散布が日焼け果軽減の効果が高く、果実の退色や傷果の発生についても抑制される傾向がありました。糖度・酸含量など果実品質への影響はありません。

は、果面が薄く滑らかで他のかんきつに比べ日焼けの発生が多い品種です。

そこで、かんきつのチャノキ

（県農林技術開発センター・古川忠）